

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立肥前中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各評価項目については、概ね達成できた。 「1人1台端末を活用した授業改善」「家庭学習への取り組み」「積極的なボランティア活動」「望ましい生活習慣の形成」については、十分達成できた。この成果を学力向上にもつなげていきたい。 「開かれた学校づくり」と「小中連携」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止を優先したため、思うような成果をあげることができなかった。 「1人1台端末を活用した授業実践」佐賀県教育委員会研究指定校として、令和4年度の発表に向けて、各教科で取り組みを進めることができた。
2 学校教育目標	志と誇りを胸に、夢に挑戦し続ける生徒の育成
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1人1台端末を積極的に活用した、生徒一人一人の「学ぶ力」を育成する学習指導法を工夫 心の教育の充実 コロナ禍における保護者、地域、校区の小学校との連携を工夫

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学習アンケートで、「1人1台端末を活用」に関する項目について、できている・だいたいできていると回答する生徒の割合を9割以上にする。 ●「家庭学習を1時間以上行う」と回答した生徒の割合を5ポイント以上向上させる。	●各教科で、より有効的な1人1台端末活用を意識した、授業実践を行う。別室登校の生徒にオンライン授業を配信する。 ●各教科でアウトプットを意識した家庭学習の指導を行う。	B	7月に行ったアンケートの結果、「タブレットを活用することで」、「学習意欲が高まった」と回答した生徒は82%、「知識やできることが増えた」と回答した生徒が93%、「物事についてよく考えたり、自分の考えを表現したいりすることが増えた」と回答した生徒は86%であった。 ●平日「家庭学習を1時間以上行う」と回答した生徒は、52%であった。	A	2月に行ったアンケートの結果、「タブレットを活用することで」、「学習意欲が高まった」と回答した生徒は83%、「知識やできることが増えた」と回答した生徒が83%、「物事についてよく考えたり、自分の考えを表現したいりすることが増えた」と回答した生徒は79%であった。 ●平日「家庭学習を1時間以上行う」と回答した生徒は、72%であった。中間報告より20%伸びた。	研究主任 ICT教育担当	
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○教育に関するアンケートにおいて、「肥前中の先生は、工夫して学力向上に取り組んでいる」と回答した生徒の割合を、9割以上にする。	●1人1台端末を活用した授業改善に取り組む、研究を進める。1学期に研究発表会を行う。	●「1人1台端末を活用した授業改善」にかかる研究発表会を1学期に行い、成果を上げることができた。	B	●教育に関するアンケートにおいて、「肥前中の先生は授業にグループ活動を取り入れたり、生徒同士で学び合ったりする工夫をして、学力向上に取り組んでいる」と回答した生徒89%であった。 ●さらなる、学力向上への取り組みは必要である。	B	●教育に関するアンケートにおいて、「肥前中の先生は授業にグループ活動を取り入れたり、生徒同士で学び合ったりする工夫をして、学力向上に取り組んでいる」と回答した生徒89%であった。 ●さらなる、学力向上への取り組みは必要である。	研究主任 教育相談担当 生徒指導主事 学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートで、「人の嫌がること言ったり、したりしない」や「いのちの教育についての取組は役に立っている」「積極的にボランティアに取り組んでいる」と回答した生徒を9割以上にする。	●道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施。 ●開発的生徒指導を取り入れ、生徒に活躍の場を与え、自己肯定感を育てる。 ●ボランティア活動に積極的に取り組むよう呼びかけ、その行動を全校や家庭、地域に情報発信する。	B	●生徒会を中心にボランティア活動や募金活動を行った。 ●各学年では、総合学習の時間の取り組みや行事に実行委員会を立ち上げ生徒に活躍の場を与えた。 ●道徳の授業作りに関する校内研修は行えなかった。	B	●教育に関するアンケートにおいて、「人の嫌がることを言ったりしていい」と回答した生徒は85%、「命の教育についての取り組みは役に立っている」と回答した生徒は93%、「積極的にボランティア活動に取り組んでいる」と回答した生徒は93%であった。 ●性と生の教育講演会を実施した。	生徒会担当 道徳教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止について「組織的対応ができてい」と回答した教員を9割以上にする。	●学年の生徒指導部会を充実させ、学年で迅速に対応できる体制をつくる。 ●生活アンケートを定期的に実施する。 ●生徒理解協議会を充実させる。 ●いじめに関する研修会を開催する。	B	●学年の生徒指導部会に管理職も入り、迅速に、組織的に対応することができた。 ●事業によっては、SSWIにも関わってもらい適切に対応することができた。	B	●教育に関するアンケートにおいて、「いじめの早期発見や生徒の人権意識の高揚を図るように取り組んでいる」と回答した職員は、87%であった。 ●毎月生活アンケートを行い、適切に対応することができた。	生徒指導主事 教育相談担当 各学年主任	
	◎生徒が夢や目標を持ち、学びを人生や社会に生かそうとする人間性の涵養	○学校アンケートで、「自分の進路について考えたり、目標を持ったりできている思う」と回答した生徒を8割以上にする。	●各学年、計画的にキャリア教育に取り組む。3年間を見通した取組を行う。 ●立腰帰りの会放送で、生徒が将来の夢等についてスピーチする。	●学年に応じて、高校調べや職業講話、進路説明会などを計画的に行うことができた。 ●学習アンケートの結果、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は、79%であった。	B	●教育に関するアンケートで、「自分の進路について考えたり、目標を持ったりできていると思う」と回答した生徒は62%であった。 ●上記アンケートの3年生の結果は、85%であった。3年間を見通した計画的なキャリア教育の取り組みを再考する必要がある。	B	●教育に関するアンケートで、「自分の進路について考えたり、目標を持ったりできていると思う」と回答した生徒は62%であった。 ●上記アンケートの3年生の結果は、85%であった。3年間を見通した計画的なキャリア教育の取り組みを再考する必要がある。	各学年主任 特別活動担当
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●「毎朝朝食を食べて登校する」と回答した生徒を9割以上にする。 ●「起床時間と睡眠時間を設定している」と回答する生徒80%以上にする。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上にする。	●生活習慣アンケートの実施する。(運動・生活リズム・食事・安全について) ●毎日の健康観察を行い、自分の健康状態に関心を持つようにする。 ●感染症予防を徹底する。 ●生徒会の給食実践部の取組として、給食に使用されている食材について、情報を発信する。	B	●養護教諭、SCIによる相談を行った。 ●生徒会生活保健部を中心に消毒活動を行った。	A	●毎朝朝食を食べている」と回答した生徒は、92%であった。 ●毎朝の検温、健康観察を行った。 ●生徒会給食実践部を中心に、給食に使用されている食材についての情報発信を行った。	養護教諭 栄養教諭	
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故や生活事故を0(ゼロ)にする。	●交通安全教室を実施する。 ●自転車点検の実施する。 ●原子力防災訓練、火災避難訓練、不審者対応訓練等を行う。 ●アレルギー対応の研修を行う。	A	●交通安全教室、防煙教室等計画的に行うことができた。	A	●生徒の交通事故や不注意による生活事故は0件であった。 ●原子力防災訓練、火災避難訓練、不審者対応訓練をきせおこなうことができた。また、保護者引き取り訓練も適切に行うことができた。	生徒指導主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●毎週水曜日に定時退勤日を設定する。 ●業務記録票により毎月の時間外勤務の状況を可視化し、各自改善を図る。 ●文書のペーパーレス化を図る。	B	●毎週水曜日には、定時退勤日であることを提示し、職員に対して呼びかけることができた。 ●文書のペーパーレス化をさらに進める必要がある。	B	●業務記録票により、毎月の時間が勤務時間を把握することができた。 ●80%の職員が時間外在校時間の上限を遵守することができた	管理職	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	主な担当者	
○開かれた学校づくり	○ICTを活用した情報発信	○「学校は情報発信に努めている」と答える保護者の割合を9割以上にする。	●はなまる連絡帳やホームページの更新頻度を高め、学校行事や生徒の様子を積極的に発信する。 ●地域の団体等と協働した教育活動を実践する。	B	●はなまる連絡帳を活用し、必要に応じて情報発信を行った。 ●ホームページ更新頻度を高めることがまだできていない。	C	●「学校は情報発信に努めている」と回答した保護者は82%であった。 ●各クラスから学級通信、校長から学校通信が発行された。 ●ホームページの更新が滞る時があった。	管理職	
○小中連携	○小中連携による共通理解と共通実践	○学校アンケートで、「校区の小学校と連携して、生活・学習習慣づくりを進めている」と回答した保護者を8割以上にする。	●肥前中校区教育研究会を充実させ、小中連携した取組を行う。 ●小中連携の取組を積極的に保護者に発信する。	B	●小中連携の取り組みを保護者に発信することはあまりできなかった。 ●計画通りに小中連携を進めることができた。	B	●定期的に肥前中校区教育研究会の各部会が行われ、小中連携を図った。 ●学校アンケートで、「校区の小学校と連携して、生活・学習習慣づくりを進めている」と回答した保護者は82%であった。	管理職 教務 研究主任 生徒指導主事	

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 各評価項目については、概ね達成できた。学力向上や保護者や地域への情報発信など不十分なところについては、見直しをもって改善できるように取り組んでいきたい。 令和5年度は「1人1台端末を活用した授業実践研究」の3年目となる。次のミッションである「コア・スクール・ネットワーク構想」に全職員で組織的に取り組み、その研究が生徒に還元できるように努めていきたい。
--------------------	---

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育